

音楽と感情・気分に関する研究

古賀 弘之
(2003年9月30日受理)

Music and emotion / mood

Hiroyuki Koga

The purpose of this article was to create a new kind of problem in the area of "music and emotion" research. Before surveying and reviewing articles about mood responses for music, I redefined "feeling" and "mood" for the purpose of this article. From the reviewed articles I inferred that mood induction studies were effective to induce positive or negative moods in subjects. Recent studies, however, suggest that negative music not only induces negative mood but positive mood as well. Thus, further studies to clarify the effects of negative music on mood are needed.

Key words: Music, Emotion, Mood
キーワード：音楽，感情，気分

音楽を聴取することで、何らかの感情・気分が喚起されることは経験的によく知られている。本研究では、音楽聴取による気分変化に関する研究を概観することを通し、今後検討されるべき課題を設定することを目的とする。

I. 感情・気分

まず、感情という言葉と気分という言葉が混同して使用されることを避けるため、感情と気分について定義を行う。

〈感情の定義〉

感情についての定義は、研究者間で一致していないという指摘がある（例えば、Campos, et. al, 1989, Frijda, 1986, 今田, 1999, 岩下, 1999, 川口, 2002, Leventhal & Tomarken, 1986, 宮崎, 1990, Radocy & Boyle, 1979, 高野, 1995, 谷口, 1997b）。この理由として、研究者の立場によって感情の捉え方が異なるという理由が挙げられる（Cornelius, 1996, 川口, 2002, 高橋, 2002）。

心理学における感情研究の立場は、大別して進化適応的観点、生理的観点、認知的観点、社会文化的観点

の4つである（谷口, 2002）。それぞれの立場は、Darwin説、James説、認知説、社会的構築主義説と呼ばれている（Cornelius, 1996）。感情の捉え方は、システム、機能、状態、特性などがある（谷口, 2002）。

本研究で扱う気分（mood）は、認知説における、状態（state）としての感情である。

感情を特性としての感情と、状態としての感情とに区別して捉えることの必要性は、Cattel & Scheier（1961）により提唱された。Cattel & Scheier は、不安と神経症傾向の研究において、これまでのパーソナリティ研究が、被験者の特性（trait）の定義と測定のみを問題としていたことを指摘し、行動パターンの全体的理解のためには、気分状態（mood state）の概念を導入する必要があると主張している。この主張を受けて、Spielberger（1966）は、状態-特性不安理論を提唱した。つまり、「不安」という感情は、今現在不安な状態にあるという「状態不安」と、人格特性として不安になりやすいという「特性不安」に区別すべきだと主張した。また Izard（1991）は、不安に限らず感情は、特性（trait）としての感情と状態（state）としての感情に分けられると主張している。さらに川口（2002）は、感情における状態と特性は、その持続時間の違いで区別されると述べている。つま

り、状態は比較的短時間で一過性の経験であり、特性は長期にわたる安定した性質で、特定の同じ感情を経験しやすいかどうかの個人的傾向であるとしている。このように、比較的近年の認知-感情研究では、感情を特性としての感情と、状態としての感情とに区別し、それぞれが認知過程に及ぼす影響について明らかにしようという試みが行われている（例えば、伊藤, 2000b, Rusting, 1998など）。

感情の定義として、感情を包括的概念として捉え、その中に情動 (emotion) や気分 (mood) を含むという立場がある。これには、感情を affect とする立場 (有光, 2002, Forgas, 1992 ; 1995, 伊藤, 1997 ; 2000a ; 2000b ; 2001, 谷口, 1997a, 土田, 1996) と、feeling とする立場 (濱, 2001, 針塚, 1994, 水町, 1980, 大村, 1977, 山下, 1988) とがある。これに対し、吉川・伊藤 (2001) では、affect と feeling の両方が感情として捉えられている。また、日本感情心理学会では、感情を emotion と対応させている (松山, 1993)。この感情を emotion とする立場では、情動や気分といった概念を使用しないで、感情の持つ性質を説明している (今田, 1999, 高橋, 1992)。

Clore, Ortnoy, & Foss (1987) は、感情 (affect) は、生理的反応、認知、行動、主観的体験で構成されると定義している。

大平 (1997) は、認知心理学の立場から、感情には5つの相があると述べている。すなわち、①知識構造、②情報処理過程、③モニター、④身体反応、⑤表出・行動の相である。この中の②情報処理過程について、その知的側面を認知 (cognition)、情的側面を快・不快などの感情 (affect) と捉える立場がある (伊藤, 1997 ; 2000a ; 2000b ; 2001, 谷口, 1997)

また、感情は広義には情動や気分などを含む包括的な概念であるが、狭義には、快-不快を両極とし、様々な中間層を持つ状態と定義する立場もある (濱, 2001, 山下, 1988)。

感情を捉える立場が様々に異なる中で、Oatley & Jenkins (1996) や濱 (2001) は、感情に関する現象が時間を基礎に考えることができると述べている。たとえば情動 (emotion) は、数秒から数分の単位で、急激な表出や自律反応系の変化を伴って生じる感情であるのに対し、気分 (mood) は、数日から数週間の単位で持続する、弱い感情である。このように気分は性格や気質との関連が強く、数ヶ月や数年の単位で持続するものは人格特性 (personality trait) と捉えられている。

以上の先行研究で扱われた感情の定義に共通して見られた見解をふまえ、本研究では感情を以下のように

定義する。

- ①感情は特性としての感情と状態としての感情に分けられる。
- ②感情は包括的な概念であり、その下位概念として、気分や情動などを区別する。
- ③感情は人間の心的情報処理における、快・不快などの情的側面である。
- ④感情は時間を基礎として区別することができる。

〈気分の定義〉

気分についての見解は、研究者間でおおよそ一致していると考えられる。多くの研究者は、気分をある程度の長さ持続する、弱い、もしくは穏やかな感情状態であると定義している。(有光, 2002, 濱, 2001, 針塚, 1994, 細部, 1980, 伊藤, 2000a ; 2000b ; 2001, 神谷, 2002, 益谷, 1996, 高橋, 2002, 谷口, 1991, 谷口, 1997a, 土田, 1996, 山下, 1988, 吉田, 1973, 吉川・伊藤, 2001)。

これらの定義の中には、気分の性質のみについて、穏やかな感情状態 (伊藤, 1999, 川瀬, 1996) であると定義するものや、時間的側面のみについて、ある程度の長さ持続する感情状態である (Eagle, 1971, 大村, 1977, 高野, 1995, 投石, 1999) と定義するものもある。

また、日常頻繁に観察される感情状態で、何らかの操作を行うことで容易に喚起することができる (伊藤, 1999 ; 2000a ; 2000b ; 2001), 気分を喚起した対象が不明確であり、良い気分とか悪い気分といったように漠然としたもの (針塚, 1994, 細部, 1980, 伊藤, 2000b ; 2001, 高橋, 2002, 谷口, 1997a, 山下, 1988, 吉川・伊藤, 2001) などと捉えられる主張もある。

この他には、主観的な感情状態である (Eagle, 1971, 針塚, 1994, 大平, 1997), 身体状態と関連する (細部, 1980, 益谷, 1996, 山下, 1988), 性格や気質との関係が強い (濱, 2001, 吉田, 1973) などの特徴を挙げ、研究者もいる。

以上の先行研究で扱われた気分の定義に共通して見られた見解をふまえ、本研究では気分を以下のように定義する。

- ①気分は様々な感情状態の一つである。
- ②気分は弱く穏やかな感情である。
- ③気分はある程度の長さ持続する。
- ④気分は明確な対象がなく生じる。
- ⑤気分は良いとか悪いといった漠然としたものである
- ⑥気分は日常頻繁に観察される。
- ⑦気分は何らかの操作を行うことで、容易に喚起できる。

II. 音楽聴取による感情・気分反応研究

音楽による感情反応に対する心理学的アプローチは、①音楽側からのアプローチと、②人間側からのアプローチの2つに大別される(谷口, 1998)。音楽側からのアプローチとは、音楽聴取によって感情が生じる仕組みに対する取り組みであり、人間側からのアプローチとは、音楽によって生じた感情反応に対する取り組みである。本研究は人間側からのアプローチである後者の立場に立つものであるため、音楽聴取により喚起された気分に関する研究について概観を行う。

音楽聴取により喚起された気分に関する研究は、主に次の4つに分けられる。すなわち、音楽聴取が心理的側面に与える影響に関するもの、生理的側面に与える影響に関するもの、行動的側面に与える影響に関するもの、心理・生理・行動的側面に与える影響について同時に検討したものである。

音楽聴取が心理的側面に与える影響を検討したものとしては、以下のものが挙げられる。①不安などの気分には及ぼす影響を検討したもの(Fisher & Greenberg, 1972, 畠山・竹内, 2001, 松浦・平松, 2000, 岡林・大串, 2001, Rohner & Miller, 1980, Thaut & Davis, 1993, 富田・大木, 1988, 富田・越川・大木, 1989), ②痛みの軽減に及ぼす影響を検討したもの(Hanser et al, 1983, Hekman & Hertel, 1993), ③感情特性との関連を検討したもの(竹内, 1998; 1999, 富田・越川・大木, 1994), ④絵画に対する印象に及ぼす影響を検討したもの(神谷・小山田, 2001, 古賀, 2002, 谷口, 1997a), などである。

III. 聴取音楽に対する印象と感情・気分の測定

中村(1983)は、音楽に対する気分反応を扱った心理学的研究を概観し、その内容が、①音楽に対する印象を評定させるもの、②音楽聴取によって被験者内に生じた気分を評定させるものに大別できることを指摘している。音楽聴取による気分反応研究においては、気分に影響を及ぼす刺激である、聴取音楽に対する印象をあらかじめ測定しておくことが必要である。音楽に対する印象は、質問紙法によって行われることが多い(松田, 1997)。また、感情・気分研究の方法の中でも、心理的側面の研究についての研究は質問紙法を中心に行なわれている(有光, 2002)。ここでは、音楽聴取による気分変化に関する研究について、特に質問紙法によるものに着目し、概観を行う。

〈音楽の印象評定尺度〉

ここでは、音楽に対する印象を測定する方法として、特に質問紙法について概観する。音楽に対する印象を言語による記述で収集するためには、チェックリスト法、単極評定法、SD法が使われてきた。

チェックリスト法は、形容語のリストに対し、対象の評定に該当するものをチェックさせる方法である。チェックリスト法に関する研究として、Hevner(1936), Campbell(1942), Sopchak(1955), Farnsworth(1954)などが挙げられる。チェックリスト法は被験者の負担が小さいという利点があるが、気分の程度を測定できないという欠点がある(松浦, 2001)。

単極評定法は、形容語のリストに対し、あてはまる程度を多段階で評定させる方法である。単極評定法としては、Asmus(1985), 松井・内山(1997), 中村(1983), 谷口(1995a)などが挙げられる。単極評定法は1尺度につき1語について評定するため、SD法と比較すると被験者の負担が少ないという利点があるが、反対語が示されていないため、形容詞の意味があいまいになりやすいという欠点がある(松浦, 2001)。

SD法は、対になる形容語を両極とするリストに対し、その中間を多段階で評定させる方法である。SD法に関する研究は、音楽心理学の立場と、音楽教育の立場とで行なわれたものに大別される。

音楽心理学の立場としては、古矢(1968)や岩下(1972), 富田・越川・大木(1994, 1989), 富田・大木(1988)などが挙げられる。

音楽教育の立場としては、石井(1982a; 1982b; 1984)や神原・土井(1991), 川原・野波(1977, ただし1974も参照), 野波(1988; 1990, ただし1986も参照)などが、音楽鑑賞の評価手法にSD法を用いている。

SD法は1尺度につき2語について意味の理解を求められるため、被験者の負担が大きいうという欠点があるが、形容詞の意味のあいまいさを減らせるという利点がある(松浦, 2001)。

〈感情・気分測定尺度〉

感情を測定する尺度は、感情状態(以下気分状態)を測定するものと、感情特性を測定するものとが存在する。本研究では、状態としての感情である気分を測定する代表的な尺度を取り上げた。

気分状態を測定する尺度は、特定の気分を測定するものと、いくつかの気分を多面的に測定する尺度とに大別される(有光, 2002)。

特定の気分状態を測定する尺度として、不安を測定

する STAI (State-Trait Anxiety Inventory; Spielberger, Gorsuch, Lushene, Vagg, & Jacobs, 1983) の状態不安尺度が挙げられる。また、怒りの測定では、STAXI (State-Trait Anger Expression Inventory; Spielberger, 1988) の怒り状態尺度が挙げられる。

多面的な気分状態を測定する尺度としては、アラウザルチェックリスト (General Arousal Checklist, GACL; 畑山・Antonides・松岡・丸山, 1994), MAAC-R (Multiple Affective Adjective Checklist-Revised; Zuckerman & Lubin, 1985), POMS (Profile of Mood States; McNair, Lorr, & Droppelman, 1971), MACL (Nowlis Mood Adjective Checklist; Nowlis, 1965), 一般感情尺度 (小川・門地・菊谷・鈴木, 2000), 気分調査票 (坂野・福井・熊野・堀江・川原・山本・野村・末松, 1994), 多面的感情状態測定尺度 (寺崎・岸本・古賀, 1992), PANAS (Positive And Negative Affect Schedule; Watson, Clark, & Tellegen, 1988) などが挙げられる。

IV. 音楽による気分誘導研究

気分誘導には、言語によるもの、非言語によるものなど様々な方法がある。音楽による気分誘導の場合、ポジティブかネガティブの気分を誘導するとされる音楽を単独で呈示するか、数曲を連続的に呈示するという手続きが用いられる。音楽による気分誘導を行った研究では、音楽聴取による気分変化や、気分変化による認知の変化について検討が行われている。

音楽による気分誘導手続きの有効性については、様々な研究でも実証されている (Kenealy, 1988; Niedenthal & Setterlund, 1994; Pignatiello et al., 1986; Weis-termann et al, 1996)。そのため、近年の感情・気分に関する研究では、音楽による気分誘導手続きが用いられることが多い。

谷口 (1997a) では、抑うつ感情価の高い音楽を用いて気分誘導を行った結果、被験者は音楽を聴取しなかった統制群と比較すると、抑うつの気分が有意に高くなっていたことがわかった。しかし、谷口 (1995c) では、ネガティブな音楽に対して“好き”と評定していた場合は、音楽聴取後にポジティブな気分が喚起されていた被験者の存在を指摘しており、ネガティブな音楽に対する反応について検討する必要性が挙げられた。

V. ネガティブな音楽と気分に関する研究

伊藤・岩永 (1999) では、聴取前の気分状態と音楽の特徴との関係が、音楽に対する同質感に与える影響と、音楽に対する同質感が聴取中、聴取後の共感・発散感や情動反応に及ぼす影響について検討が行われた。その結果、①音楽聴取前に抑うつ・不安が高い被験者は、暗い音楽に同質感を感じることで、②暗くて穏やかな音楽に対して同質感を感じた場合、感じなかった場合よりも、共感・慰め・発散感が高まり、抑うつ・不安が増大しないこと、③暗くて激しい音楽に同質感を感じた場合、感じなかった場合よりも非活動的快が低減しにくいことが示された。この結果からは、同質感は暗い音楽を聴取した場合にのみ認められること、同質感は暗い音楽において、ポジティブな気分を増大させる可能性があるということが示唆された。

松本 (2002) では、悲しい音楽が気分には及ぼす影響について検討が行われた。その結果、①やや悲しい場合に悲しい音楽を聴くと悲しみは低下しないが、非常に悲しい場合に悲しい音楽を聴くと悲しみが低下すること、②悲しみが生じていない場合に悲しい音楽を聴くと悲しい気分が生じることが示された。この結果からは、悲しみが強いときには悲しい音楽が好まれ、悲しみが弱いときには明るい音楽が好まれるということが示唆された。

Altshuler (1954) の同質の原理 (Iso-principle) では、聴取者の気分状態と同質の特徴を持つ音楽を聴取することがリラクゼーション誘導に有効であると言われている。たとえばネガティブな気分のときには、ネガティブな音楽を呈示することが適当であるとされている。伊藤らと松本の研究は、この同質の原理を実証的に検討したといえる。ただし、同質の原理はネガティブな音楽においてしか適用されていない。松本ではネガティブな音楽に対する反応のみが検討されていたが、伊藤らではポジティブな音楽に対する反応についても検討されていた。その結果、ポジティブな音楽聴取に対する反応からは、同質感との関連はみられなかった。しかし、ポジティブな音楽に対して異質感が生じた場合は、同時にネガティブな気分が生じることが考えられる。ポジティブな音楽に対する反応については、今後詳細に検討される必要がある。

VI. 今後の検討課題

気分誘導の研究では、被験者にネガティブな音楽を呈示することで、ネガティブな気分を喚起させることが行われる。しかし、同質の原理では、ネガティブな気分状態ではネガティブな音楽を呈示することで、ポジティブな気分が喚起されると主張されている。したがって、今後はネガティブな音楽に対する反応の違いが生じる条件について、検討を行う必要性が挙げられた。そのためには、まず音楽による気分誘導研究を行い、自然な気分状態でのポジティブな音楽とネガティブな音楽による気分誘導効果を比較検討する必要がある。次に、その結果をふまえ、被験者の気分状態の違いを要因とし、音楽聴取による気分反応について検討を行う必要がある。さらに、音楽聴取によりポジティブな気分が生じる場合とネガティブな気分が生じる場合の条件を説明するモデルを提示し、検討することが必要である。

【参考文献】

- Altshuler, I. M. 1954 The past, present, and future of musical therapy. In Podolsky, E. (ed.) *Music Therapy*. New York: Philosophical Library. Pp.24-35.
- 有光興記 2002 質問紙法による感情研究 感情心理学研究, 9, 1, 23-30.
- Arnold, M. B. 1960 *Emotion and personality: Psychological aspects. Vol. 1.* New York: Columbia University Press. Pp.182.
- Asmus, E. P. 1985 The development of a multi-dimensional instrument for the measurement of affective response to music. *Psychology of Music*, 13, 19-30.
- Bower, G. H. 1981 Mood and memory. *American Psychologist*, 36, 129-148.
- Bower, G. H. 1991 Mood congruity of social judgments. In Forgas, J. P. (Ed.), *Emotion and social judgments*. Oxford: Pergamon Press. Pp.31-53.
- Campbell, I. G. 1942 Basal emotional patterns expressible in music. *American Journal of Psychology*, 55, 1-17.
- Campos, J. J., Campos, R. G. & Barrett, K. C. 1989 Emergent Themes in the study of emotional development and emotion regulation. *Developmental Psychology*, 25, 394-402.
- Cattell, R. B. & Scheier, I. H. 1961 *The meaning and measurement of neuroticism and anxiety*. New York: Ronald Press.
- Clark, M. S. & Isen, A. M. 1982 Towards understanding the relationship between feeling states and social behavior. In Hastorf, A. H. & Isen, A. M. (Eds.), *Cognitive social psychology*. New York: Elsevier-North, Holland. Pp.73-108.
- Clore, G. L., Ortony, A., & Foss, M. A., 1987 The psychological foundations of the affective lexicon. *Journal of Personality and Social Psychology*, 53, 751-766.
- Cornelius, R. R. 1996 *The Science of Emotion: Research and tradition in the psychology of emotions*. New York: Simon & Schuster/A Viacom Company.
- 斉藤勇 (監訳) 感情の科学—心理学は感情をどこまで理解できたか— 誠心書房
- Eagle, C. T., Jr. 1971 Effects of existing mood and order presentation of vocal and instrumental music on rated mood responses to that music (Doctoral dissertation, The University of Kansas, 1971), *Dissertation Abstracts International*, 32, 2118-A. (University Microfilms No.71-27, 139)
- Farnsworth, P. R. 1954 A study of the Hevner adjective list. *Journal of Aesthetic and Art Criticism*, 13, 97-103.
- Fisher, S. & Greenberg, R. P. 1972 Selective Effects upon Women of Exciting and Calm Music *Perceptual and Motor Skills*, 34, 987-990.
- Forgas, J. P. 1992 Affect in social judgments and decisions; A multiprocess model. In M. P. Zanna (Ed.), *Advances in experimental social psychology. Vol.25.* San Diego: Academic Press. Pp.227-275.
- Forgas, J. P. 1995 Mood and judgment: The affect infusion model (AIM). *Psychological Bulletin*, 117, 39-66.
- Frijda, N. H. 1986 *The Emotions*, Cambridge: Cambridge University Press.
- 古矢千雪 1968 SD法による音楽感情の分析 日本心理学会第32回大会発表論文集, 151.
- Hanser, S. B., Larson, S. C., & O'Connell, A. S. 1983 The effect of music on relaxation of expectant mothers during labor. *Journal of Music Therapy*, 20, 2, 50-58.
- 濱治世 2001 第1章 感情・情緒(情動)とは何か 濱治世・鈴木直人・濱保久共著 新心理学ライブラリ17 梅本堯夫・大山正監修 感情心理学への招待—感情・情緒へのアプローチ サイエンス社 Pp.1-62.
- Hekman, H. M. & Hertel, J. B. 1993 Pain Attenuating

- Effects of Preferred Versus Non-preferred Music Intervention. *Psychology of Music*, 21, 2, 163-173.
- 針塚進 1994 第8章 感じる世界を探る 丸野俊一・針塚進・宮崎清孝・坂元章著 ベーシック現代心理学1 心理学の世界 有斐閣 Pp.163-179.
- 島山英子・竹内純子 2001 音楽聴取による気分状態の変化について 社会福祉研究室報, 11, 96-107.
- 畑山俊輝・Antonides G・松岡和生・丸山欣哉 1994 アラウザルチェックリストから見た顔のマッサージの心理的緊張低減効果 応用心理学研究, 19, 11-19.
- Hevner, K. 1936 Experimental studies of the elements of expression in music. *American Journal of Psychology*, 48, 246-268.
- 細部国明 1980 気分 小林利宣編 教育・臨床心理学辞典 北大路書房 Pp.104.
- 今田純雄 感情 1999 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁柘算男・立花政夫・箱田裕司 心理学辞典 有斐閣 Pp.141.
- 石井信生 1982a 音楽教育における享受体験に関する実験的研究 - 女子学生の音楽享受における“感じ”の言語化をとおして - 広島女子大学家政学部紀要, 17, 91-102.
- 石井信生 1982b 音楽教育における享受体験に関する実験的研究II - 女子学生の音楽享受におけるあらわでない反応行動をとおして - 広島女子大学家政学部紀要, 18, 199-210.
- 石井信生 1984 音楽教育における享受体験に関する実験的研究III - 女子学生の音楽享受における情緒的意味体系をとおして - 広島女子大学家政学部紀要, 20, 145-156.
- 伊藤美加 1997 自己関連語における気分一致効果 心理学研究, 68, 1, 25-32.
- 伊藤美加 1999 気分一致効果の生起要因について 京都大学大学院教育学研究科紀要, 45, 237-249.
- 伊藤美加 2000a 気分一致効果を巡る諸問題 - 気分状態と感情特性 - 心理学評論, 43, 3, 368-386.
- 伊藤美加 2000b 気分一致効果研究における方法論上の問題 京都大学大学院教育学研究科紀要, 46, 196-208.
- 伊藤美加 2001 感情と情報処理方略 京都大学大学院教育学研究科紀要, 47, 380-391.
- 伊藤孝子・岩永誠 1999 音楽に対する同質感がリラクセーションに及ぼす影響 - 聴取前感情状態と音楽の特徴との関係 - 広島大学総合科学部紀要IV理系編, 25, 141-150.
- Izard, C. E. 1991 *The Psychology of Emotions*. New York: Plenum Press.
- 荘厳舜哉監訳/比較発達研究会訳 1 情動の起源と機能について 感情心理学 ナカニシヤ出版 Pp.19-44.
- 岩下豊彦 1972 情緒的意味空間の個人差に関する一実験的研究 心理学研究, 43, 188-200.
- 岩下豊彦 1999 心理学 第3章 感情 金子書房 Pp.541-608.
- 神原雅之・土井陽子 1991 児童の音楽鑑賞に於ける情動的インパクトに関する研究 - 小学校音楽鑑賞用共通教材を中心として - 広島文教女子大学紀要, 26, 91-104.
- 神谷ひとみ・小山田隆明 2001 音楽療法に関する基礎的研究 - 認知に与える楽曲の感情価の影響 - 岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告, 20, 2, 57-62.
- 神谷俊次 2002 5章 感情とエピソード記憶 感情と心理学 - 発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 - 北大路書房 Pp.100-121.
- 川原浩・野波健彦 1974 音楽教育研究における実験的研究(I) - 音楽体験としてのアジアの民俗音楽 - 広島大学教育学部紀要第4部, 23, 127-133.
- 川原浩・野波健彦 1977 音楽教育研究における実験的研究(II) - 享受体験におけるイメージの言語化に関する分析 - 広島大学教育学部紀要第4部, 26, 75-85.
- 川口潤 2002 4章 感情と認知をめぐる研究の過去・現在・未来 感情と心理学 - 発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 - 北大路書房 Pp.81-97.
- 川瀬隆千 1996 第9章 感情と記憶 土田昭司・竹村和久編 対人行動学研究シリーズ4 感情と行動・認知・生理 感情の社会心理学 誠信書房 Pp.203-227.
- Kenealy, P. M. 1988 Validation of a music mood induction procedure: Some preliminary findings. *Cognition & Emotion*, 2, 41-48.
- 古賀弘之 2002 音楽による気分誘導が絵画評定へ及ぼす影響 広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座音楽文化教育学研究紀要, 14, 129-138.
- Leventhal, H. & Tomarken, A. J. 1986 Emotion: Today's problem. *Annual Review of Psychology*, 37, 565-610.
- 益谷真 1996 第6章 タッチングー感情経験の源と対人行動 土田昭司・竹村和久編 対人行動学研究シリーズ4 感情と行動・認知・生理 感情の社会心理学 誠信書房 Pp.127-150.
- 松田隆夫 1997 第2章 知覚と感情 海保博之編 「温かい認知」の心理学 金子書房 Pp.37-52.
- 松井仁・内山明美 1997 音楽の感情価評定の検討 - 分析単位に注目した項目特性の分析 - 新潟大学教育学部紀要, 39, 1, 43-52.

- 松本じゅんこ 2002 音楽の気分誘導効果に関する実証的研究 —人はなぜ悲しい音楽を聴くのか— 教育心理学研究, **50**, 23-32.
- 松浦美晴・平松芳樹 2000 短期大学生に見られる楽曲の感情価認知と聴取における感情変化との関係 中国短期大学紀要, **31**, 197-206.
- 松浦美晴 2001 音楽の感情的性格の測定法と評定バIAS 山陽論叢, **8**, 89-98.
- 松山義則 1993 発刊の辞 感情心理学研究, **1**.
- McNally, D., Lorr, M., & Droppleman, L. 1971 *Psychiatric Outpatient Mood Scale*. Boston, MA: Psychopharmacology Laboratory, Boston University Medical Center.
- 宮崎清孝 1990 感情と認知 日本児童研究所編 児童心理学の進歩, **29**, 161-187.
- 水町俊郎 1980 感情 小林利宣編 教育・臨床心理学辞典 北大路書房 Pp.90.
- 中村均 1983 音楽の情動的性格の評定と音楽によって生じる情動の評定の関係 心理学研究, **54**, 54-57.
- Niedenthal, P. M., & Setterlund, M. B. 1994 Emotion congruence in perception. *Personality and Social Psychological Bulletin*, **20**, 401-411.
- 野波健彦 1986 音楽科教育における関心・態度に関する研究 (I) —小学校高学年・中学生の音楽に対する態度測定尺度の開発— 山口大学教育学部研究論叢, **36**, 3, 73-79.
- 野波健彦 1988 音楽科教育における関心・態度に関する研究 (V) —中学生の音楽に対する態度のSD型尺度による分析— 山口大学教育学部研究論叢, **36**, 3, 121-131.
- 野波健彦 1990 音楽科教育における関心・態度測定のための研究 —小学校高学年・中学生・高校生の音楽の授業に対する態度のSD型測定尺度の開発— 音楽教育学, **19**, 2, 23-32.
- Nowlis, V. 1965 Research with the Mood Adjective Check List. In Tomkins, S. S. & Izard, C. D. (Eds.), *Affect, cognition, and personality*. New York: Springer.
- Oatley, K., & Jenkins, J. M. 1996 *Understanding emotions*. Blackwell.
- 小川時洋・門地里恵・菊谷麻美・鈴木直人 2000 一般感情尺度の作成 心理学研究, **71**, 3, 241-246.
- 岡村佳子・大串健吾 2001 音楽を聴取することで生じる気分変化について 日本音楽知覚認知学会平成13年度秋季研究発表会資料, 1-8.
- 大平英樹 1997 1章 認知と感情の融接現象を考える 枠組み 海保博之編 「温かい認知」の心理学 金子書房 Pp.9-36.
- 大村政男 1977 感情研究法 依田新監修 新・教育心理学事典 金子書房 Pp.136.
- Pignatiello, M. F., Camp, C. J., & Rasar, L. A. 1986 Musical mood induction: An alternative to the Velten technique. *Journal of Abnormal Psychology*, **95**, 295-297.
- Radoocy, R. E. & Boyle, J. D. 1979 *Psychological Foundation of Music Behavior* 3rd ed. Springfield: Charles C Thomas Publisher. 徳丸吉彦・藤田美美子・北川純子 (訳) 第VI章 情緒的行動と音楽 音楽行動の心理学 音楽之友社, 1985. Pp.169-204.
- Rohner, S. J. & Miller, R. 1980 Degrees of familiar and affective music and their effects on state anxiety. *Journal of Music Therapy*, **17**, 1, 2-15.
- Rusting, C. L. 1998 Personality, mood, and cognitive processing of emotional information: Three conceptual frameworks. *Psychological Bulletin*, **124**, 165-196.
- 坂野雄二・福井知美・熊野宏昭・堀江はるみ・川原健資・山本晴義・野村忍・末松弘行 1994 新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の検討 心身医学, **34**, 629-636.
- Sopchak, A. L. 1955 Individual differences in responses to different types of music, in relation to sex mood, and other variables. *Psychological Monographs*, **69**, 11, 1-19.
- Spielberger, C. D. 1966 *Anxiety and behavior*. New York: Academic press.
- Spielberger, C. D. 1988 *Manual for the State-Trait Anger Expression Inventory (STAXI)*. Odessa, FL: Psychological Assessment Resources.
- Spielberger, C. D., Gorsuch, R., Lushene, R., Vagg, P., & Jacobs, G. 1983 *Manual for the State-Trait Anxiety Inventory*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- 高橋恵子 1992 概観 —感情研究の現在と認知科学的発展への期待— 安西祐一郎・石崎俊・大津由紀雄・波多野誼余夫・溝口文雄編/日本認知科学会協力 認知科学ハンドブック 共立出版 Pp.175-182.
- 高橋雅延 2002 3章 感情の操作方法的現状 感情と心理学 —発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開— 北大路書房 Pp.66-80.
- 高野清純 1995 第1章 感情とは何か 感情の発達と障害 福村出版 Pp.7-24.
- 竹内貞一 1998 音楽鑑賞時の印象形成に及ぼす心理的要因の影響—抑うつ性と音楽の印象測定の調査・

- 分析を通して— 日本教科教育学会誌, **21**, 1, 51-57.
- 竹内貞一 1999 音楽の鑑賞活動における心理的要因の影響—抑うつ性・神経症的傾向と音楽の印象の関係— 音楽教育学研究論集/東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科芸術系教育講座音楽教育学研究室, **1**, 34-43.
- 谷口高士 1995a 音楽作品の感情価測定尺度の作成および多面的感情状態尺度との関連の検討 心理学研究, **65**, 463-470.
- 谷口高士 1995b 被験者の自然な気分の状態と性格形容語の再生成績との関連について 大阪学院大学人文自然論叢, **30**, 1-11.
- 谷口高士 1995c 音楽の感情価と感情反応 梅本堯夫編 音楽心理学の研究 ナカニシヤ出版 Pp.242-252.
- 谷口高士 1997a 音楽聴取によって生じる気分と絵画の印象評価 大阪学院大学人文自然論叢, **31**, 61-67.
- 谷口高士 1997b 記憶・学習と感情 海保博之編 「温かい認知」の心理学 金子書房 Pp.53-75.
- 谷口高士 1998 音楽と感情—音楽の感情価と聴取者の感情的反応に関する認知心理学的研究— 北大路書房
- 谷口高士 2002 第4章 感情と認知をめぐる研究の過去・現在・未来 感情と心理学—発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開— 北大路書房 Pp.81-97.
- Teasdale, J. D. & Russell, M. L. 1983 Differential effects of induced mood on the recall of positive, negative and neutral words. *British Journal of Clinical Psychology*, **22**, 163-171.
- 寺崎正治・岸本陽一・古賀愛人 1992 多面的感情状態尺度の作成 心理学研究, **62**, 350-356.
- 寺崎正治・古賀愛人・岸本陽一 1991 多面的感情状態尺度・短縮版の作成 日本心理学会題55回大会発表論文集, 435.
- Thaut, M. H., & Davis, W. B. 1993 The influence of subject-selected versus experimenter-chosen music on affect, anxiety, and relaxation. *Journal of Music Therapy*, **30**, 4, 210-223.
- 富田正利・大木桃代 1988 音楽の鎮静効果に関する予備的研究 日本心理学会第52回大会発表論文集, 170.
- 富田正利・越川房子・大木桃代 1989 音楽の鎮静効果に関する予備的研究(2)テンポと音高の効果について 日本心理学会第53回大会発表論文集, 374.
- 富田正利・越川房子・大木桃代 1994 音楽の鎮静効果に関する予備的研究 音楽心理学・音楽療法研究年報, **23**, 196-198.
- 投石保広 1999 気分 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁枏算男・立花政夫・箱田裕司 心理学辞典 有斐閣 Pp.168.
- 土田昭司 1996 第5章 感情と社会的判断—意思決定と態度構造 土田昭司・竹村和久編 対人行動学研究シリーズ4 感情と行動・認知・生理 感情の社会心理学 誠信書房 Pp.103-126.
- Watson, D., Clark, L., & Tellegen, A. 1988 Development and validation of brief measure of positive and negative affect: The PANAS Scales. *Journal of Personality and Social Psychology*, **54**, 1063-1070.
- Weistermann, R., Spies, K., Stahl, G., & Hesse, F. W. 1996 Relative effectiveness and validity of mood induction procedures: a meta analysis, *European Journal of Social Psychology*, **26**, 557-580.
- 山下利之 1988 感情・情緒 現代心理学用語事典 クローズアップ〈こころの科学〉を読みこなす 田中平八編著 垣内出版 Pp.100-107.
- 吉田正昭 1973 気分 東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保編 心理用語の基礎知識 有斐閣 Pp.64-65.
- 吉川左紀子・伊藤美加 2001 感情の理論 中島義明編 現代心理学理論事典 朝倉書店 Pp.347-365.
- Zuckerman, M. & Lubin, B. 1985 Manual for the multiple affective checklist-revised. San Diego, CA: Edits.

(主任指導教官 森 敏昭)